

## 「名残の薔薇」の不凋花データ

初期 HP

35 点

フラグメント

8 個

想定ラウンド

3~4

## 概要

いつの間にか礼拝堂の地下には薔薇が生い茂り一斉にさざめく。  
それは少女たちが囁き合う声にも似て、なぜか冷たい敵意が滲むように感じられるだろう。

〈不凋花〉が儀礼剣を構えると、いくつもの鮮やかな花が光の粒をこぼしながら崩れ、また花開いて、敵対者を阻む力へと変化した。

## フォーカスドクトリン

1

条件：ラウンド1のセット時

対象：配役2

2

条件：不凋花の《フラグメント》が減少した時

対象：《フラグメント》を減少させた剪定者

3

条件：ラウンド4のセット時

対象：配役2

4

条件：ラウンド4以降、剪定者が《ロスト》した時

対象：次にターンがくる剪定者

## サブドクトリン

## サブ1 結晶廃園の薔薇

内容

《フロント》と、《フロント》と隣接するセルにいる剪定者全員に【ダイスチェック：2個】の攻撃を行います。

描写

儀礼剣を向けた先に育つ薔薇は結晶の花を持ち、鋭い切片で肌をひどく切り裂く。

## サブ2 薔薇炎

内容

《フォーカス》した剪定者に【ダイスチェック：4個】の攻撃を行います。

その後、《フォーカス》した剪定者がいるセルに「名残の薔薇マーカー」を配置します。

**名残の薔薇マーカー**：もはや夢と消えた、不凋花の願った救いの花に似た何か。

この《マーカー》は単体では効果を持ちません。

描写

青い炎のような薔薇が花開き、幻のように揺れる。しかし灼かれた肌は現実だ。

## サブ3 いばらの森

内容

i nのセルにいる剪定者全員に[「名残の薔薇マーカー」の数+2] 点のダメージを与えます。

描写

鋭い棘を持った薔薇の蔦が伸び、絡みつく。

## メインドクトリン

## メイン1 Ring-a-Ring-o' Roses

outのセルにいる剪定者全員に【ダイスチェック：5個】の攻撃を行います。

内容

次に、outのセルにいる剪定者全員を、現在いる番号のinのセルに移動させます。

その後、inのセルにいる剪定者全員に【ダイスチェック：4－[直前にoutのセルから移動させた剪定者の数]個】の攻撃を行います。

描写

駆け寄る少女達の幻影が崩れ、薔薇の花弁の波となり押し寄せる。それは散る先から凍り、燃え、吹き荒れ、破滅的な事象へ姿を変えた。

## メイン2 Rosa Alchemica

《予兆》の時点で、現在剪定者がいる番号のoutのセル全部に「名残の薔薇マーカー」を配置します。

内容

《メインドクトリン》の実行時、「名残の薔薇マーカー」があるセルと、「名残の薔薇マーカー」があるセルと隣接するセルにいる剪定者全員に【ダイスチェック：4個】の《貫通攻撃》を行います。

その後、この攻撃を受けなかった剪定者全員は《ゲージ》が3点減少します。

描写

〈不凋花〉が呟く詩篇通りに顕現した庭園には輝く薔薇が咲き乱れ、そこを中心として循環する力が荒れ狂う。

メイン1・2では〈不凋花〉は「配役3」の反抗心を折ろうと試みます。

これまでに生贄になった……役目を果たした生徒たちの姿や、強大な「名残の薔薇」の力を見せ、逆らうことの愚かさを語りかけるでしょう。「名残の薔薇」の宿主の条件は、いわば希望し、そして絶望すること。未だ「配役3」はその条件から外れていないのですから。

## メイン3 Das Rosen-Innere

剪定者全員に【ダイスチェック：2個】の《貫通攻撃》を3回行います。

内容

次に、inのセルにいる剪定者全員の《ゲージ》を3点減少させます。

その後、[6×減少させた《ゲージ》の合計値]点、不凋花の現在のHPを増加します。

描写

薔薇は咲きこぼれ、満ち溢れ、園を閉ざさんばかりに舞い散る。それは触れた者の命を吸い上げ、〈不凋花〉の力となる。

## メイン4 The Rosette Nebula

《フロント》にいる剪定者全員に【ダイスチェック：7個】の《貫通攻撃》を行います。

内容

次に、《フロント》以外にいる剪定者全員に【ダイスチェック：6個】の攻撃を行います。

その後、マップ上にある「名残の薔薇マーカー」をすべて取り除き、[3×取り除いた「名残の薔薇マーカー」の数]点、不凋花のHPを減少します。

これ以降、《フォーカスドクトリン4》の効果以外で不凋花の《フォーカス》は変化しません。

描写

場に残る「名残の薔薇」の力をすべて束ね、自らを触媒に解き放つ。自らをも犠牲にしようとも、幻想の終わりをもたらす者を許さない。

メイン3では〈不凋花〉は、衝動的な感情が前に出るかもしれませんが。

それは、「正しいことをしているのに」という苛立ち、正気と狂気の間の混乱などです。

メイン4であらわとなるのは、思い通りにならない怒りや立ちはだかるものへの憎しみです。

これは「名残の薔薇」に侵食されているようなイメージとなります。